

中齋塾 東京フォーラム  
平成 26 年度 第 6 回講話

平成 26 年 6 月 14 日  
於 湯島聖堂

今、ふっと思い出しましたが、教育実習のため高校へ赴いた時、鮮明に覚えていることがあります。国語の授業中「松の木は…」という表現の時、目についた生徒がいたので、前に来るように言いました。その生徒に松の木の役をやらせると、うるさく喋っていた生徒達は黙って静かになってしまった。かなり昔の話です。その時は、場面をイメージさせて他の生徒にも前に出てきて貰ったことを思い出しました。

素読をする時、眼前にそのときの状況が目には浮かぶように素読をすると良いでしょうと日頃言っておりますけれど、教育実習の時もやっていたなと思い出した次第です。

#### 紹介書籍

『陽明学のすすめⅡ 人間学講話「安岡正篤・六中観」』深澤賢治著 明德出版社

#### 基本哲学—知足—

今回テーマが、六中観ですから「足るを知る」について、安岡正篤先生が紹介しておられる文章にちょっと触れます。

安岡正篤先生は長い間「知足」の「足」の部分、なぜ「手」ではいけないのかを疑問に思っていたそうです。

「手」は生きていく上で非常に便利で役に立つし万能である。何で「知手」ではいけないのか。漢文関係の先生方にお聞きしても明快な答えが返ってこない。なぜ「知手」ではなく「知足」なのかと疑問に思っていたら、お医者さんの話を聞いてハッと気がついたそうです。お医者さんが「足が五体を全て支えているから足が基本です。足がきちんとしなければ、その人は駄目になる。手は何とかなる」という内容を聞いて、知足が自分の心の中で腑に落ちたそうです。

いろいろ会話はあるのですが、学問的に、宗教的にみたらとありますけれども、お医者さんの話を聞いて腑に落ちたのが面白いと感じました。

ちなみに、私の足の話しをいたします。私は靴があわなくて 15～16 年間足が痛くて、靴

探しをしています。いろいろな靴屋さんを探して訪ねると自信満々に「私の所に来たのだから大丈夫、直しましょう」と言ってくくださる。靴をたくさん直してもらったのですが、ほんのちょっとの所で痛みがとれない。

ある集まりの時に、知人から紹介していただいた高齢者向け専門の靴屋さん。今、私が履いている靴はその靴屋さんです。その靴屋さんは「社員数は少ないが毎日感謝状が束になって届く。大変な靴屋さんです」と聞いて、翌日その営業所へ行きました。靴を買って履いてみたら良かった。その靴屋さんから足のクリニックを紹介していただいて、この前行ってきました。良いお医者さんにめぐりあったなと思いました。

そのお医者さんは「痛いのは当たり前です。きちんと手当てをせず、足にあった靴を履いていないからです。あなたの足は扁平足です。扁平足をほったらかしにした為に、扁平足が広がり、外反母趾になってしまった。外反母趾になった後もそのまましておいたから悪くなってしまった。あなたは眼鏡を掛けていますが、眼鏡を掛けたらそれ以上悪くならないでしょう。足も同じで、足にも眼鏡をお掛けなさい。足をこのままにしておく手術をすることになります。手術寸前で私の所に来られたから足に眼鏡を掛けて差し上げましょう。眼鏡は我々の言葉で中敷と言います。あなたに合った中敷は専門の人を呼んで作って貰いますから、それを眼鏡だと思ってください。これ以上、足は悪くならず痛みもとれます」とおっしゃって、注射を打ってちょっとした治療をしました。これで長い間苦しんできた痛みから解放されました。

然るべき会合に出て、然るべき人を求めていると然るべき人に会える。その結果、悩み苦しんでいたものが解決していくことを感じました。

それは「君子は文を以て友と会し、友を以て仁を輔く」の実例であると感じます。

この間、母親が亡くなって仏壇から遺言書が出てきました。生まれて初めて身内の遺言書を開けました。

母親の遺言書で分かったことは、公正証書にしておく色々面倒なことが無い。今回は遺言書だから顧問弁護士と話して家庭裁判所で開けることになりました。

私の兄が遺言書を見つけたので、兄が遺言書を持って家庭裁判所で指定された日に一緒に行きました。そうしたら「家庭裁判所は中身について何かは申しません。それは弁護士との話しです。我々は間違いなく遺言書と書いた物を開封して、中身について確認を取って、それを裁判所にもあなた方にもきちんとお渡しをする」と言っていました。開封の時に、これは良い遺言書ですね。すべて筆で書いてあるのは珍しいと言われました。専門の人にも見せたら「これは良い見事な遺言書です」と言われました。「何故ですか」と聞きますと「和紙に筆で自筆で書いてあり、書き方も良い書き方をしています」と、相続人では無い人にあげる場合には、何々を誰々に遺贈するという書き方をしていました。これはそれなりの人に聞きながら書いたとは思いますが、納得しました。でも公正証書にしておけ

ば、直ぐに終わるなと感じました。あと、かなりいい加減だと思ったことは、相続人がいてその相続人同士の意見が一致したら本人が希望していないことでも相続人同士の話し合いで決める事はできますと言われ、それでは遺言書はどうなるのかというと、目安ですとのことでした。トラブルになった時だけは裁判所が関わるということです。

今回、実に馬鹿馬鹿しく思ったことが個人情報保護法なるものがあったので、生まれてから死ぬまでの戸籍をずっと追いかけていかなければいけない。あちこち行ってきました。

戸籍を取ることは、けっこう大変だという感じがしました。例えば私の住民票を取ると家内は同居人と出ますが、前は妻と書いてあったのが今は省略ですね。本籍も本籍地だけで本籍そのものは省略されています。何から何まで省略だらけで入れるように頼まないと出てこない。

個人情報保護法であれも駄目これも駄目。最近では認知症で徘徊した人の身元や行方を探そうと思っても「個人情報保護法で教えられません」と言われてしまいます。法律を作る時のものの考え方は一体どうなっているのか、運用の仕方はどうなっているのか非常に疑問を持ちました。

「足るを知る」から考えると、元々の目的は何だろうと良く考えていけば、こんな馬鹿な事はあちこちで起きないだろうなという気がします。個人情報保護法も程々にしてあげれば良いのですけれどね。法律も同じで、程々にしてあげれば良いのではないかという感じがいたします。

## 論語の視点

今回は短い章句でしたが、読み方も良かったです。

(畑中会員) 一はい、練習しました。

練習をすればするほど良くなる。ちなみに「鍛練」という言葉があります。練習でも良いですが、練はどのくらい練習すると思えますか。

「鍛」は、1千日稽古をすること。

「練」は、1万日稽古をすること。

辞書で調べれば、そう書いてあると思います。宮本武蔵もそういう書き方をしています。鍛練は鍛えて練り上げます。練習は練り上げる。習は学ぶですから、雛鳥が親鳥の羽ばたきを見て真似をする感じです。

## 顔淵十二

【二十三】子貢 しこう 友 とも を問う。子曰く、忠告 しゅうこく して善く よ 之 これ を道 みちび き、不可 ふか なければ則 すなわ ち止 や む。自 みづか らを辱 はずか しむること母 な かれと。

子貢は頭が良く人づきあいも良い。そのように恵まれている人間が、どういう人物とつきあえば良いのか迷って、孔子に「友について」聞きました。孔子は、真心を持って良い方向へ皆を引っ張っていけば良い。しかし、聞き入れないからといって、無理やり首を突っ込んではいけません。自分自身を貶めることになるから、お止めなさいと答えました。

アドバイスをするのも限界があると思えば良いでしょう。

私の体験談でいきますと、半日時間をたっぷりかけて話しをして、分かってくれた、良かったと思いました。そこで最期に相手から一言聞いた時、一所懸命に話したものが伝わっていなかったと思った途端、視力がガクッと落ちました。だからあまり全身全力を傾けて人にアドバイスをするのもちょっと考えものだと思います。真心を込めて相手にアドバイスをしていくのは相手を見ながらするもので、力を込めるのも程々にしましょうという部分ですね。

#### 【二十四】曾子そうし曰く、君子は文ぶんを以て友ともを会し、友ともを以て仁じんを輔たすく。

孔子より、曾子は46歳若い。曾子の父親が孔子のお弟子さんで、小さい頃から孔子の話しを聞いていたと捉えてください。

君子は人物と捉え、人物は学問の集まりの会合を開いていけば良いでしょう。

たくさん儲けようと思って集まってくる会と、自分を磨こうと集まってくる会では、自ずからその会の氣品が変わってくると感じます。儲けようと思って集まる場所は、ワッと人が集まってきますが、儲からないと直ぐに辞めてしまう。

「友を以て仁を輔く。」友達同士は、良い人物とつきあうことによって自分の人徳を磨き、人間として完成していく手助けをすることでお願いします。

友達の良い人を選んだ方がよいでしょう。

#### 恒例の質問

・ここ一週間、嘘はつかなかった人

一はい、有難うございます。なるべく嘘をつかないで、一日過すと翌日氣持ちが良いですよ。

寺子屋サミットを主催している全国論語普及会の季刊誌が送られてきてまして、中を見ましたら渋沢栄一の話で、おもしろいことが書いてありました。

渋沢栄一は「どなたでも必ずお会いする」と残していたのですが、その季刊誌には渋沢

栄一の所に若者が訪ねて行った。そうしたら門番、守衛さんか取り次いでくれない。「紹介状があるか」と聞かれ、無いと答えたら「紹介状が無ければ渋沢栄一に合わせる訳にはいきません」と言われ、ずっと押し問答をして埒があかない。その若者は、家の中を巻くぐらいの巻紙で手紙を書いて小包で送りました。何故あなたは会ってくれないのかという内容を書いたのでしょうか。

数日後、渋沢栄一から「この日に待っているから、いらっしゃい」と返事がきたので若者は喜んで出かけました。そうしたらまた取次ぎが出てきて「また君か、通す訳にはいかない」と言い、若者は手紙を見せるが「ふざけた事はするな」と、また押し問答をしていたら、奥から渋沢栄一が出てきて若者を招いたそうです。

渋沢栄一は自分の視界に入ったときは断らない。だけどその前に関門があり断られる人がいっぱいいるなど感じました。渋沢栄一はどなたでも会いたいと言った人にはお会いする。でも会いたいという意思表示を途中でシャットダウンされたら伝わりません。これはけっこう身の回りにありませんか。

渋沢栄一は、「私は人が会いたいと言ってきたら必ず会う」と明言しています。御本人は嘘をついているつもりはさらさら無い。ただし若者からみれば、周りが止めてしまいますから、誰にでも会うというが、嘘ではないかと思ってしまう。

嘘はつかないと言うのも少し広げてみて、自分は嘘をつかないけれども、周辺の人がどういう対応をしてくださっているかも、ちょっと気にするとよい時期に入ったと思っています。

・ここ一週間、良い日が続いたと思う方がいいでしょうか

この間、変な夢を見ましてね、起きたら汗びっしょり。何でこんな夢を見たのかなと思っていたら、寝る時に良い日と出来なかったものがあつた。嫌だなと思って寝ると悪い夢を見ますよ。良い日だったなと思うと翌朝は良い目覚めですが、悪夢にうなされますと翌朝は汗びっしょりになりますね。

・ここ一週間、健康法を実践していたなと思う方どうでしょう

元横綱の貴花田が、四股を踏む形の健康法を紹介しているのを見まして、山崎流棒術と同じような事をやっていると感じました。

私は色々ミックスさせて健康法をやっています。それで山崎流棒術と合わせます。棒を持ち、棒を下に置いて背筋をピンと伸ばし、息を吐いて息を吸いながら持ち上げたところで息が一杯になったら、背中を曲げて息を吐く。これを10回。今朝もやってきました。

基本になる健康法を一回覚えたら、そればかりではなく、色々試してみると良いでしょう。

20代の時と30~40代それから50代60代70代80代、みな体力違いますでしょう。骨密度も変われば、血圧も変わるので年代に合わせた健康法を取り入れていかないと、いつ

までも同じ健康法をしていると危ない。年齢に合わせて変えたほうが良い。若いときは食べ物も美味しくたくさん食べられるが、年を取ってくるとそうはいかないですね。

・自分の年齢に合わせて、体力年齢に合わせて健康法をやっているかなと、思う方はどうでしょう

はい、有難うございます。半分ぐらいですね。色々ご研究ください。

・明日を過去形でイメージした方どれくらいおられますか。

おひとり。差し支えなければ、お話できますか。

(会員) 今日、中斎塾フォーラムがあるので、塾長の話しがどうい話が出るか、自分にとってプラスになる話しになるだろうというイメージをして昨日は寝ました。

ーなるほど、有難うございました。

### テーマ「六中観」

あちこちで話していますから、知っていらっしゃる方も多いとは思いますが「忘中閑あり・苦中楽あり・壺中天あり・意中人あり・死中活あり・腹中書あり」です。

毎日忙しくてどうしようもないという方、おられますか。

忙しいのは「清忙」がよろしい。清々しい気持ちになるような忙しさ。忙しくてどうにもならないのは、だいたい雑用が多い。

私は身内が亡くなって、色々な用事を全部キャンセルしました。用事も他の人が代理でやっただいて別に滞らない。私が行かなくなると世の中ちっとも困らない。困るのは自分自身だけだった。だから忘中閑ありとは、自分の心の問題だなと思いました。

全部キャンセルしたって、世の中まるっきり関係ない。ちなみに忘中閑あり、死中活ありはセットです。

比田井副理事長が、ぼっくり逝ってしまったらモンゴルの話しは止まりますかね。仮に話が止まったとしても、世の中がひっくり返るほどの大事にはならない。生きていればこそ、色々と出来ます。忘中閑あり・苦中楽あり・死中活あり、全部ひっくるめてです。

安岡正篤先生の言葉で面白いなと思ったところは、「私は平静密かに困ったり、悩んだり、苦しんだり、精神的空虚感に襲われたときは、自分が情けなく惨めに思えたり」という部分です。あれだけの先生でも精神的な面が虚ろになる。そのときに「六中観」を噛み締めることによって、またエネルギーを取り戻した。

中身より何よりそう考えた安岡先生が御自分で役に立たせていた。ここは人間味が溢れていてよろしいなと感じます。

「壺中天あり」は、趣味をお持ちかどうかです。この趣味を始めると時間を忘れて本当に楽しいという方は、いらっしゃいますか。

楽しい、嬉しい、ワクワク。そういう趣味があれば良いですね。

俗世間のことはパッと忘れて、自分自身リフレッシュする所が必要です。それは趣味の世界だと思っています。

壺は、その趣味の世界に入って俗世間の仕事を忘れリフレッシュして、その中で綺麗に自分を洗濯することによって新しい自分に生まれ変わっていく。ところが俗世間に交わったままで一日中生きていくと垢にまみれて寝なければいけない。これは良くない。

ちなみに安岡先生は、本の中に書いてありますけど、辞書を引けば分かるような事を教えてくださいと手紙がたくさん来る。いちいち目を通して返事を書くのは、たまったもんじゃない。自分自身を磨く時間が無くなるから、外から帰ってきたら必ず書斎に飛び込んで、本を開けて 1 ページでもいいから読んで気持ちを綺麗にする。それは自分の心を洗濯する、心にシャワーを浴びるということです。

気持ちを綺麗にして、心にシャワーを浴びて、さっぱりして良かったなと思って寝ると良いとしておられたようです。ですから「壺中天あり」は、良い趣味をお持ちになると良いでしょう。

「腹中書あり」は佐藤一斎曰く、人生の金メダルコースを進むのは「天地自然を師とせよ」

銀メダルコースは「素晴らしい人格を持った人物に出会い、師とせよ」

銅メダルコースは「古今東西の書物の中で、良い・素晴らしいと思う書物を見つけろ」良い書物に出会ったら、それを活かすことによって銅メダルコースの人生が送れると残っています。

腹中書ありは、自分自身の心の中に哲学をお持ちなさい。その哲学を持つために天地自然を師にするか、素晴らしい人格を持った人物を師にするか、素晴らしい書物を師にするか探さないと六中観で書いておられます。

ちなみに安岡先生は明治 31 年に生まれて昭和 58 年に亡くなっておられます。B29 が飛んで来て、今にも死ぬかもしれないと思いつつ語って残した遺言みたいなもの。最後に話したものが「六中観」です。重みのある言葉だと感じます。

忘れるといけないから、連絡事項をいくつか申し上げておきましょう。

明日、第二回論語寺子屋サミットが大阪で行われます。中斎塾フォーラムから 11 名応援をいただいているようで有難うございます。私は「寺子屋サミット」という名前が良いでしょうとアドバイスをして採用されましたから、やっぱりこれは応援をしなくてはいいかん

なと思っております。論語の専門家の集まりですから行くのは楽しいです。

伊與田先生は99歳で現役です。背筋を伸ばして話しをされる。御本人は九十九迂叟という書き方をしています。俗世間のことは分からん、もう関係ない年寄りだよという風な意味合いを込めているのかなと思いました。

伊與田先生と中斎塾フォーラムの参与をしていただいている荒井桂先生の対談集を拝見していると、伊與田先生は小さい頃に母親が亡くなって、母親のことを忘れるために論語の素読を一生懸命にやった。母親のことが気にならなくなるのに40年かかったとあります。ああ、大変だなという気がいたしました。今でも伊與田先生は朝、論語の素読をしているそうです。

木内信胤先生は父親が亡くなられた後、法華経を必ず読む習慣が身についたと言われました。父親が亡くなってから法華経を教わり始め、その道の専門家に聞いて宗教心理について考えたということです。

自分の心の拠り所になるものを見つけ、それを毎朝、毎朝声を出して読んでいくことは、自分の心を練り上げるのに良いですね。先程の鍛練の練の方ですね、練り上げるということだと思います。

2つ目は、次回の北関東フォーラムで前から申し上げていた深澤文江特別基金をお渡ししようと思っています。目録、特別基金の100万円を中斎塾フォーラムに寄付させていただいて、それで小冊子を作る委員会を発足させる原資にします。北関東フォーラムで、そのセレモニーをしたいと考えています。それはまた中斎塾通信でお伝えするようになると思います。

あとは7月6日靖国神社での奉納吟詠13名お集まりいただくことになりました。私が教わっている鉄砲洲支部の支部長が会長になりましたので、気合が入っております。今回は夏目漱石の心境という長い詩吟をやりますので、練習いたしましょう。

それから8月は、私は山ごもりをしますが、9日はサマーカレッジ楽しみにいたしております。六中観がテーマだと聞きましたので、今回は六中観の話しをいたしました。

## 時事評論

今、畑中さんから幾つ新聞を読んでいるのかと話がありました。何のことはない、夕べもビジネスホテルに泊まっていたから、ホテルに置いてあります朝日、読売、毎日、日経とそれらを順番に読んで、読んだ中でこれと思うものだけをチェックして残しておきます。各紙読んでいくと、だいたい似たような事ばかりが書いてあります。



例えば、日経新聞 6 月 8 日（日）。日本の法人実効税率は主要国より高水準である。日本の法人実効税率は国と地方を合計で 35.64%か。40%を越す米国本土、ドイツが 29、イギリスが 23、中国 25、韓国 24。それらと比べて日本は著しく法人税が高いとコラムに載っています。だから法人税は下げましょう、という言い方を安倍政権はやっていますね。

だけれども日経新聞 6 月 8 日の一面では、こんなことになっています。「法人税最大 1 兆円上振れ、大企業が納税額 5 割増」という見出しです。

14 年 3 月期決算の上場企業日本では納税額は前の比率で 5 割増えました。13 年の法人税の税収は最大 11 兆円を超えると 4 年連続で増える公算が大きくなると書いてあります。お金が国に入り始めていますね。それで法人税は下げましょうとやっているけれども、ならない。これは税金を増やそう、国の収入を増やそうという動きをしています。他のものをずっと眺めてみます。

「マイナス金利」6 月 11 日の日経新聞。これはユーロ圏でデフレ懸念との戦いが始まり欧州の中央銀行が異例のマイナス金利を行う。

マイナス金利は、銀行が中央銀行にお金を預ける時に手数料を払わなければ、預けられない。逆の動きをし始めている。これはデフレ対策ということですが、そういう動きが世界的に出ている。

日本は？ということになります。それから税金がらみのもので言うと、マイナス金利が最近多いですね。

あとは「追加の緩和規制」、これは読売新聞 6 月 14 日。日銀が追加の金融緩和策を 7 月にも行うということですが、量的質的の金融緩和の継続を決めた。世の中にどんどん出ているお金はどんどん出します。2%の消費者物価上昇率を実現することに自信を深め、更にこれを継続していくという風な内容の新聞です。

ここら辺まで読んでみると論語の「哀公 有若に問う」が浮かびます。魯の国の哀公が孔子のお弟子さん有若に「我が国の税金は 20%だけれども 20%ではどうにも足りない。どうしたら良いか」と質問をしたら、有若が「税金は 1 割にきなさい」と答えました。そうしたら「2 割でも足りないのに、なぜ 1 割にするんだ」というやり取りが論語の中にあります。

翻って日本はどうなのか、何回かお話ししていますよね。

年収 4536 万円以上の者を高額所得者といい、現在の所得税 40%を今度は 45%に上げますと、来年そうなります。そうすると 45%の所得税と 10%の住民税それから訳の分からない税金がいっぱい掛かっていますよね。復興税だって、いつの間についたのか。私、知らなかったのですが、国民健康保険税なるものがあつた。いつの間にか、税金になっています。国民健康保険税、介護保険税、何でも税とつければいいのかと思うくらいです。

いろんな税金や、あとは消費税だって今度 10%に上げるという話になっているでしょう。そういうことをずっとやると高額所得者にとっては、だいたい実感で収入の 6 割は税金で

す。6割持っていかれたら日本に残りますか。

ある役員会で喋ったことを思い出しましたが、交通費で税務署はうるさかった。今日は中斎塾フォーラムで来ています。そうすると交通費は中斎塾負担となりますが、私の1日の用事は色々ごちゃ混ぜになっています。けれども本来は全てその仕事に合わせた所から交通費は精算していただくのが普通であると言います。できる人は良いですが、私はいくつもの仕事に関わっていますので、現実には難しいです。

税務署は「どういう基準で、あなたはここの会社から交通費を取っているんですか」と聞きますから「税務署と同じです」と言ったら、「何でしょうか」と言うから「税金は取れる所から取っている。私も取れる所から交通費を取る」と言いましたら、向こうは怒っちゃたけどね。…笑いごとではなくて、本当にそう思いますもの。

今の税務署は本当に細かいですよ。経理担当者に「会長はどう動いて、ここの部分はどういう理由で、どういう目的で行かれたんでしょうかね」と聞いていますが、分かる訳がありません。私が経理の担当者に「今日は、これこれこういう用事でこういう風に行きます」と、いちいち言う訳がありません。

税務署はおだてたり、すかしたりしながら、とにかく税金を取ろうという事だけは明快です。ありとあらゆる所から、とにかく何でもいいから取ろうとやっています。

これは歴史と併せてみると、木内信胤先生や山田方谷の著書にも色々あります。山田方谷の時代に、立木にまで立木税を掛け、この1本の木はいくらの税金を取る。そういう事をしだすと国は滅びる。木内信胤先生も同じことをちょっと違う表現で言っておられましたが、細かいところに目をつけて、本当にくだらないところに税金を掛けていくようだと滅びると言われました。孔子も同じです。

他にもありますが、何度も申し上げている源泉徴収。臨時に戦費調達のために皆さんから天引きさせてくださいと言った源泉徴収が今も生きていますが、戦争が終わったらやりませんと言ったのに、今だに取り続けている。

年金だって同じ戦費調達でしょう。年金作ったときには、日本男性の平均寿命が50歳をやっと越しましたから、年金制度を始めたって払わなきゃいけないときには、みな死んでいるからという感覚でやりましたでしょう。国内の者は責任取りません。約束しても、もともと年金は積立方式だったのが、いつの間にか賦課方式に切り替わっていましたが、最近は積立方式に戻そうと意見が出ているようです。

歴史を調べれば、高額所得者が丸裸ということがやっぱりある訳です。中所得者も丸裸ではなくて半分ぐらい筆られるでしょう。低所得者は低所得者なりに筆られますよ。

ちなみに私の母親が97歳で亡くなりましたが、国民年金5~6万の所から確か9千円ぐらいの介護保険料が天引きで取られていました。97歳の高齢者からも取る。そんな国がどこにあるのか。…ここにありましたけどね。

今、一所懸命にお金を集めているでしょう。表面的には 1000 兆円を超す国の借金を返すためという大義名分ですが、何のことは無いインフレにすれば全部チャラです。

6月13日読売新聞夕刊「集団的自衛権」ここら辺で出てくるものは何か。

世界各地で代理戦争をしています、アメリカが弱体化したから領土拡張の絶好のチャンスということでロシアはあちこちに手を出している。私の推測ですけれども、中国とロシアは連絡を取り合っていると感ずます。水面下で繋がらなければこんな事できる訳がないと思います。

中国は、今のベトナム領土で油を取り始めた。それでベトナムが抗議をしたら、船に高圧放水銃で水をぶっかけて体当たりして沈没させた。

でもベトナムは強腰では言えずに、弱腰で自分の味方をたくさん集めて、中国にプレッシャーをかけて止めさせる動きしか出来ない。どんどん戦争の危険性は高まってきています。日本の場合は、いつ巻き込まれるか分からない。巻き込まれたときには、チベットと同じことが起きる可能性が大だと感ずます。

チベットは前にも申しましたが、あそこはチベット僧が焼身自殺をしたと時々新聞に載ります。安岡正篤先生は「焼身自殺とは言うてはいけない。焼身供養と言いなさい」と、言われました。

この間、会社の懇談会でチベットの話がピンとこなかった人がいたので、「あなたは結婚する時に日本人と結婚してはいけない。中国人と結婚しなさい」と言われる。それから「お葬式は日本式の仏教で出すのは駄目」それから「言葉も日本語は禁止で中国語を使いなさい」と、日本に置きかえて話しました。

チベットの女性はチベット人同士で結婚してはいけないという事だから、いずれその内チベット人は中国人になってしまう。

チベットがそうなのは、チベットは平和だと言っていればどこも攻めてこない。武器など持ったら人が攻めてくるから武器も持たないと言い続けていたら、中国が武器を持って攻めてきて全部おさえてしまった。それと同じことが日本に起きつつあるという事です。安倍さんは相当意識していると思います。結果として、金を集めて、借金はチャラにしてしまう。これも私の推測ですよ。でもお金が集まってくる仕組みを一所懸命に作っています。お金が集まったらどうするか。戦費です。戦のために使う金は用意しようということです。

国民投票法 18 歳以上も手を打っているでしょう。やっぱり徴兵制の復活は視野に入っている。そういう動きだと私は感ずました。日本が戦争に巻き込まれないために武器を持たないのが良いと言っていたのが、武器を持って戦うための準備はどんどん整っている。戦いましょうではありません。戦うための準備は整いつつあるということだと思ひます。

新聞が今、私の手許にこれだけ沢山あり眺めています、お金や選挙、憲法改正のこと、世界はあちこちで代理戦争をやっている。突き詰めると、こんな事ばかりです。

世界の流れはロシアと中国とアメリカ、ヨーロッパ辺りを眺めていけば日本にどう影響が出てくるか、日本はどう動くべきか。

ひとつ自分の仮説を持っていけば、日本政府は自分の考えと同じ動きか、また違うか、私だったらこうしたい。こういう風にしよう。それで違うようだったら他の国に住んでみようとか、または田舎に引っ込んでみようとかが出てくると思います。いずれにしましても自給自足。総合支援体制を個人レベルでやっていく必要が、より高まったと感じます。

本日は以上で終了いたします。有難うございました。